

動けなくなることで、
見えてきたもの

長崎上映会 & トーク

3月20日(月・祝)13時30分

長崎ブリックホール

(JR浦上駅から徒歩5分)

料金:500円(介助者1名無料)

*上映後、出演者 海老原宏美さん、小田政利さん
宍戸大裕監督、山口和俊さんによるトークがあります

主催:全国自立生活センター協議会
共催:「風は生きよという」上映実行委員会 長崎

風は生きよという

宍戸大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗れ、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション:宍戸大裕 音楽:末森樹 整音:米山靖 アニメーション:植田秀蔵 撮影協力:神吉隆輔 高橋真二
宣伝写真:斎藤陽道 宣伝デザイン:玉利公節 助成:公益財団法人 キリン福祉財団 企画・製作:全国自立生活センター協議会
配給:「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewaikiyotoiu.jp



文部科学省特別選定

少年向き・青年向き・成人向き・家庭向き



風は生きよという

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。存在理由を獲得していく彼らの姿が遅しく眩しく映っていた。

作家・日本ALS協会理事
川口有美子

追い風は、ときどき前から吹いてくる

人工呼吸器は呼吸を助ける道具です

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に出会い、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとこころを揺する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かせない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。

その風に包まれた人と人とが、支えあいながら生きていたということ。



そこから吹いてくる風が 人と人とをめぐり合わせてくれます



障害が重ければ重いほど何のためにそこにいるのとか、言われるんだよね



在宅用の人工呼吸器が現れたのは1975年頃、1台200万円以上する呼吸器を自費で購入するなどして自宅へ持ち帰るしかなく、在宅へ戻るケースは稀であった。しかし1990年、診療報酬の改定により、病院から呼吸器をレンタルできるサービスが整備されたことで在宅生活への道が大きく開ける。

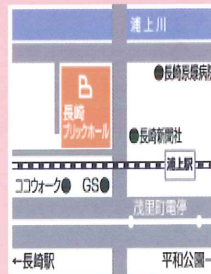
そして「病院から在宅へ」という医療改革の流れの中、在宅人工呼吸器利用者は現在約2万人にまで増えている。(出典：厚生省平成26年社会医療診療行為別調査)



「風は生きよという」上映会&トーク in 長崎

- ◆日時 2017年3月20日(月・祝) 12:30 受付 13:30 開演 16:00 閉演
- ◆場所 長崎ブリックホール 3階 国際会議場(〒852-8104 長崎市茂里町 2-38)
JR 浦上駅から徒歩5分・路面電車、バス茂里町停留所下車徒歩3分
- ◆料金 500円(介助者1名無料)
- ◆主催 全国自立生活センター協議会
- ◆共催 「風は生きよという」上映実行委員会 長崎
- ◆後援 長崎県 長崎県社会福祉協議会 長崎県教育委員会 長崎県難病連絡協議会 長崎県難病医療連絡協議会
長崎市 長崎市社会福祉協議会 長崎市教育委員会
- ◆申込 「風は生きよという」上映実行委員会 長崎
メールまたはお電話で、氏名・連絡先・参加人数・必要な配慮等をお申込み下さい。
mail:kazeiki.nagasaki@gmail.com TEL:070-4710-7108 山口

音声ガイド
・字幕つき



この事業は、キリン福祉財団助成事業によるものです

障害者ができる大きい仕事ってというのは外に出て人目について、人の意識の中に障害者の存在をちよっとでも根付かせていくこと